

教育の質保証チェックシート (2023年度)

東京家政学院大学

1. 3つのポリシー

2017年4月1日の学校教育法施行規則の改正により、全ての大学等において、3つのポリシーを一貫性・整合性のあるものとして策定し、公表するものとされています。以下の確認及びチェック項目は、中央教育審議会大学分科会 大学教育部会が2016年3月31日に刊行した「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドラインを参考にして作成しています。

(1)卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

大学、学部・学科・研究科の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業(修了)を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるものである。

①確認項目

1. 評価項目	ディプロマ・ポリシーが具体的かつ明確であること
2. 主な説明項目	大学の目的(学則第1条)を踏まえて、ディプロマ・ポリシーを具体的かつ明確に策定していること 卒業生(修了生)を社会に送り出す上で、どのような能力を身につければ学位を授与するのかという方針を具体的に示していること 教育の質を担保し、授与される学位の信頼性を高めるための継続的な施策が行われていること
3. 説明のための取組事例	ディプロマ・ポリシーをウェブサイト、シラバス、ガイダンス資料などで公表している。 学修成果とは何かを明らかにすると共に、それをどの水準まで高めるかについて公表している。
4. 根拠資料・データ	公表されているディプロマ・ポリシー 教育の質を担保し、授与される学位の信頼性を高めるための施策が確認できる資料

②チェック項目 ※「はい」「いいえ」のどちらかに「○[記号]」をご記入ください。

1	ディプロマ・ポリシーに次の各項目に係る記述が含まれている。		
	・学生が身につけるべき資質・能力の目標となる記述となっている。		はい いいえ
	・「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学修成果をあげれば、卒業を認定し、学位を授与するのかが具体的に示されている。		はい いいえ
	・学生の進路先など、社会における顕在・潜在ニーズに係る記載が含まれている。		はい いいえ
2	当該年度において、ディプロマ・ポリシーの見直しをした場合は、その内容と変更理由を記載してください。		
3	ディプロマ・ポリシーをわかりやすく解説するために、原文以外に提供している資料がありましたら、記載してください。		
4	教育の質を担保し、授与される学位の信頼性を高めるために実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。		

5	現行のディプロマ・ポリシーについて「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。

③評価結果(内部質保証推進委員会から)

総評
課題事項

(2)教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針

①確認項目

1. 評価項目	カリキュラム・ポリシーが、ディプロマ・ポリシーと整合性を有していること
2. 主な説明項目	カリキュラム・ポリシーにおいて、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、①教育課程の編成の方針 ②教育課程における教育・学修方法に関する方針 ③学修成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること 能動的学修の充実等、大学教育の質的転換に向けた取組の充実を重視したカリキュラム・ポリシーになっていること
3. 説明のための取組事例	カリキュラム・ポリシーをウェブサイト、シラバス、ガイダンス資料などで公表している。
4. 根拠資料・データ	公表されているカリキュラム・ポリシー

②チェック項目 ※「はい」・「いいえ」のどちらかに「○[記号]」をご記入ください。

1	・カリキュラム・ポリシーにおいて、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、「①教育課程の編成の方針」「②教育課程における教育・学修方法に関する方針」「③学修成果の評価の方針」の各項目に係る記述が含まれている。		はい
			いいえ
	・カリキュラム・ポリシーの内容が、ディプロマ・ポリシーに定める「獲得が期待される能力」が獲得可能なことを確認できる程度の整合性を有している。		はい
			いいえ
	・能動的学修の充実等、大学教育の質的転換に向けた取組を重視していることが確認できる記述が含まれている。		はい
			いいえ
2	・カリキュラム・ポリシーの内容が大学等の目的と整合性を有している。		はい
			いいえ
2	当該年度において、カリキュラム・ポリシーの見直しをした場合は、その内容と変更理由を記載してください。		

3	カリキュラム・ポリシーをわかりやすく解説するために、原文以外に提供している資料がありましたら、記載してください。
4	現行のカリキュラム・ポリシーについて「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。

③評価結果(内部質保証推進委員会から)

総評
課題事項

(3)入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

大学、学部・学科・研究科の教育理念、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果(「学力の3要素」※)について、どのような成果を求めるか)を示すもの

※(1)知識・技能 (2)思考力・判断力・表現力等の能力 (3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

①確認項目

1. 評価項目	アドミッション・ポリシーが明確に定められていること
2. 主な説明項目	アドミッション・ポリシーにおいて、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」を明示していること 入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていること ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと整合していること
3. 説明のための取組事例	アドミッション・ポリシーをウェブサイト、シラバス、ガイダンス資料などで公表している。
4. 根拠資料・データ	公表されているアドミッション・ポリシー

②チェック項目 ※「はい」・「いいえ」のどちらかに「○[記号]」をご記入ください。

1	アドミッション・ポリシーにおいて、次の各項目に「 」内の記述が含まれている。		
	・求める学生像については、「入学前に学習しておくことが期待される内容」		はい
			いいえ
	・入学者選抜の基本方針については、「入学者受入方針を具現化するためにどのような評価方法を多角的に活用し、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのか」		はい
			いいえ
	・学士課程については、「受け入れる学生に求める学習成果(学力の3要素)」について、どのような成果を求めるか ※学部・学科のみ、ご回答ください		はい
			いいえ

2	<p>当該年度において、アドミッション・ポリシーの見直しをした場合は、その内容と変更理由を記載してください。</p>
3	<p>アドミッション・ポリシーをわかりやすく解説するために、原文以外に提供している資料がありましたら、記載してください。</p>
4	<p>現行のアドミッション・ポリシーについて「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。</p>

③評価結果(内部質保証推進委員会から)

<p>総評</p>
<p>課題事項</p>

2. 教育課程・学修成果

ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程編成、当該教育課程における学生の学修方法・学修過程の在り方等を具体的に示すこと並びに、「学生が何を身に付けたか」という観点を重視して学生の学修成果の把握・評価を行うことは教育の質を高めるためには不可欠なことです。以下の確認及びチェック項目は、次の3つの資料を参考にして作成しています。

- i) 中央教育審議会大学分科会 大学教育部会が2016年3月31日に刊行した「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン
- ii) 大学改革支援・学位授与機構 質保証システムの現状と将来像に関する研究会が2017年3月31日に刊行した「教育の内部質保証に関するガイドライン」
- iii) 令和3年度(2021年度) 私立大学等改革総合支援事業調査票

(1)教育課程

①確認項目

1. 評価項目	
教育課程の編成がディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則して体系的であり、相応しい水準であること	
2. 主な説明項目	
教育課程の編成又は授業科目が、その内容・水準が授与される学位名に相応しいものになっていること	
学位プログラムの学修目標と授業科目の到達目標が紐付けされていること	
卒業認定・学位授与に求められる体系的な教育課程に向けて、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の様々な観点から検討が行われていること	
学習の順次生に配慮した授業科目の年次・学期配当になっていること	
能動的学修を実施する科目を開講していること	
大学院において、学位論文の作成等に係る指導に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備していること	
3. 説明のための取組事例	
教養教育及び専門教育のバランス、必修科目・選択科目等の配当など、カリキュラム・ポリシーに基づいて授業科目が配置され、教育課程の体系性が確保されている。	
カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、履修モデル、科目ナンバリングなどを整備している。	
アクティブ・ラーニング型(課題解決型学習[PBL]、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどの要素を含む)科目を開講している。	
大学院において、研究指導や学位論文の指導体制・方法を定め、公表している。	
4. 根拠資料・データ	
体系性が確認できる資料(カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、履修モデル、科目ナンバリングなど)	
授業科目の開設状況が確認できる資料	
研究指導、学位論文の指導体制・方法などが確認できる資料(規程、申し合わせ等)	
国内外の学会への参加促進、他大学・産業界との連携による指導、研究倫理に関する指導などの状況が確認できる資料	

②チェック項目 ※「はい」・「いいえ」のどちらかに「○[記号]」をご記入ください。

1	・カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、履修モデル、科目ナンバリングなどで、教育課程の体系性が確認できる。		はい
			いいえ
	・教養教育及び専門教育のバランス、必修科目・選択科目等の配当など、カリキュラム・ポリシーに基づいて授業科目が配置され、教育課程の体系性が確保されている。		はい
			いいえ
	初年次教育やキャリア教育に係る授業科目が配置されている。		はい

		いいえ
	・アクティブ・ラーニング型(課題解決型学習[PBL]、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどの要素を含む)科目を開講している。	はい いいえ
	・情報リテラシーに関する科目(授業全体を通して学生に対して情報活用能力を養成する教育を行う科目であり、ICTを活用した情報分析等の要素を含む内容であることがシラバス等で明記されている科目)を開講している。	はい いいえ
	・企業等の実データ等を用いて組織の課題解決に資するデータ分析などの実践的なデータサイエンス教育を行う数理・データサイエンス・AIに関する科目を開講している。	はい いいえ
	・企業等と協定等に基づき2週間以上のインターンシップ科目を開講している。	はい いいえ
	・大学院において、指導体制を整備すると共に、研究倫理に関する教育・指導が行われている。 ※大学院のみお答えください	はい いいえ
	・研究倫理に関する教育・指導が適切に行われている。	はい いいえ
2	カリキュラムの見直しなど、教育課程を充実させるために実施している取組や、今後、実施を予定している取組がある場合は、その概要を記載してください。	
3	大学院における研究指導において、次の取組が行われている場合は、その概要を記載してください。 ①複数教員による指導体制 ②中間発表会の開催 ③国内外の学会への参加促進 ④他大学や産業界との連携 など ※大学院のみお答えください	
4	「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。	

③評価結果(内部質保証推進委員会から)

総評
課題事項

(2)授業の内容・方法

①確認項目

1. 評価項目
授業の内容・方法が、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則して、相応しい水準であること
ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則して、適切な授業形態及び授業指導法が採用されていること

2. 主な説明項目	
授業の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	
適切な授業形態及び学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	
履修登録の上限設定の制度を設けていること	
3. 説明のための取組事例	
授業科目の内容が授与する学位に相応しい水準であり、適切な授業形態及び学習指導法が採用されていることを組織的にチェックしている。	
学生に対して全ての授業科目のシラバスが、刊行物の配付もしくはウェブサイトへの掲載等の方法により周知されている。	
学生の能動的な学修の充実に向けて、少人数グループワーク、集団討論、反転授業などの学修方法が導入されるように組織的に取り組んでいる。	
履修科目の登録上限の設定をしている。	
授業内容・方法を改善するために、学生による授業評価等の内容を組織的に確認し、活用している。	
4. 根拠資料・データ	
シラバス、学生便覧	
学則等のCAP制に関する規程	
授業科目の開設状況が確認できる資料	

②チェック項目 ※「はい」・「いいえ」のどちらかに「○[記号]」をご記入ください。

1	・授業科目の内容が、1単位につき45時間の学習を必要とする内容になっており、授与する学位に相応しい水準であることを確認している。	はい
		いいえ
	・アクティブ・ラーニング、少人数教育、PBL型授業、フィールド型授業など、学習指導法の工夫が行われている。	はい
		いいえ
	・全科目のシラバスに、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等が記載されており、ウェブサイトへの掲載等により学生に周知を図っている。	はい
	いいえ	
	・CAP制を導入している。	はい
		いいえ
	・学生による授業評価等の内容を組織的に確認し、授業改善に活用している。	はい
		いいえ
2	適切な授業形態の検討や学習指導法をより改善するために実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。	
3	「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。	

③評価結果(内部質保証推進委員会から)

総評
課題事項

(3)ファカルティ・ディベロップメント(FD)

①確認項目

1. 評価項目	
授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施している。	
2. 主な説明項目	
教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげるためのFDの取組が組織的に実施されていること	
3. 説明のための取組事例	
教員相互による授業参観・授業評価を実施している。	
授業内容・方法の改善のためのワークショップや授業検討会を実施している。	
教育能力の向上や授業内容・方法の改善に必要な知識・技能を獲得するための研修会・講演会等を実施している。	
4. 根拠資料・データ	
教員相互による授業参観・授業評価を実施していることが確認できる資料	
ワークショップや授業検討会、研修会・講演会等の開催案内	

②チェック項目

1	部局(学部・学科・研究科)独自で実施しているFD活動の概要(実施内容・方法、参加者数等)を記載してください。
2	部局独自のFD活動の参加率を上げるために実施している取組がありましたら、その概要について記載してください。

③評価結果(内部質保証推進委員会から)

総評
課題事項

(4)履修指導体制・学習相談体制

①確認項目

1. 評価項目	
ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則した、適切な履修指導・支援が行われていること	
2. 主な説明項目	
学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導・助言が行われていること	
学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言・支援が行われていること	
社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	
3. 説明のための取組事例	

履修ガイダンスを実施している。
教員によるクラス担任制を整備している。
ティーチング・アシスタント(TA)等の教育支援制度を整備している。
オフィシアワーを設定している。
学生アンケート等の内容を組織的に確認し、活用している。
卒業時に社会で必要とされる能力が身についているか確認している。
4. 根拠資料・データ
履修指導の実施状況
学習相談の実施状況
社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組

②チェック項目 ※「はい」「いいえ」のどちらかに「○[記号]」をご記入ください。

1	次の取組を実施している。			
	・履修ガイダンス		はい	
			いいえ	
	・クラス担任制		はい	
			いいえ	
	・ティーチング・アシスタント(TA)等の教育支援制度		はい	
			いいえ	
	・オフィシアワーの設定		はい	
			いいえ	
・学修成果の状況の組織的把握と対応		はい		
		いいえ		
・学習計画の指導		はい		
		いいえ		
・基礎学力不足の学生に対する指導・助言		はい		
		いいえ		
・成績不振者に対する個別学習指導		はい		
		いいえ		
2	履修指導体制・学習指導体制の更なる充実のために、「チェック項目1」の項目以外に実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。			
3	「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。			

③評価結果(内部質保証推進委員会から)

総評
課題事項

--

(5) 成績評価

① 確認項目

1. 評価項目	
カリキュラム・ポリシーに則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
2. 主な説明項目	
成績評価基準をディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則して定められている学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)と整合性をもって、組織として策定していること	
成績評価基準を学生に周知していること	
成績評価基準に則り、各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	
3. 説明のための取組事例	
各教員による適切な成績評価を促すために、組織的な取組を実施している。	
成績評価基準をウェブサイトや学生向けの刊行物で周知している。	
成績評価の分布の点検を組織的に実施している。	
GPAを活用した成績評価を実施している。	
4. 根拠資料・データ	
成績評価基準	
学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配付資料等	
成績評価の分布表	
GPA制度の目的と実施状況について分かる資料	

② チェック項目 ※「はい」「いいえ」のどちらかに「○[記号]」をご記入ください。

1	成績評価に関する次の記述に回答してください。			
	・成績評価基準について、科目の到達目標を考慮した判断基準を組織として定めている。		はい	
			いいえ	
	・学生に対して、成績評価基準を刊行物の配付、ウェブサイトへの掲載等の方法により周知している。		はい	
			いいえ	
	・学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)に照らして成績評価の分布の点検を組織的に実施している。		はい	
		いいえ		
・個人指導等が中心となる科目では、成績評価の客観性を担保するための措置を実施している。		はい		
		いいえ		
・成績評価基準とは別に、成績評価分布のガイドラインの策定や答案の返却、模範解答あるいは採点基準の提示等を行っている。		はい		
		いいえ		
2	GPAを活用している取組(卒業判定、進級判定など)がありましたら、その概要を記載してください。			
3	成績評価について「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。			

③ 評価結果(内部質保証推進委員会から)

総評
課題事項

(6)卒業・修了判定

①確認項目

1. 評価項目
大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること
2. 主な説明項目
大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則して、卒業(修了)要件を組織的に策定していること
策定した卒業(修了)要件を学生に周知していること
卒業(修了)認定を、卒業(修了)要件に則して組織的に実施していること
卒業(修了)に際して、ディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)を用意していること
3. 説明のための取組事例
卒業(修了)要件を履修の手引き等の刊行物で学生に周知すると共に、定期的に組織的な点検等の取組を実施している。
卒業(修了)要件に基づき、卒業(修了)認定を教授会(大学院研究科会議)で組織的に実施している。
卒業(修了)時に、ディプロマ・サプリメントを導入している。
4. 根拠資料・データ
卒業(修了)要件を定めた規定
卒業(修了)判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料
卒業(修了)要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配付資料、ウェブサイトなど
審査に合格した学生の学位論文等

②チェック項目 ※「はい」・「いいえ」のどちらかに「○[記号]」をご記入ください。

1	卒業(修了)判定に関する次の記述に回答してください。	
	・卒業(修了)要件が組織的に策定され、大学設置基準等が定める要件と整合性を組織として定めている。	はい いいえ
	・学生に対して、卒業(修了)要件を刊行物の配付、ウェブサイトへの掲載等の方法により周知している。	はい いいえ
	・卒業(修了)要件の審査が定められた手順どおりに実施されている。	はい いいえ
	・学位論文の審査が定められた手順通りに実施されている。	はい いいえ
2	卒業(修了)判定の客観性を担保するために実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。 (ex.ディプロマ・サプリメントの導入)	
3	卒業判定について「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。	

--	--

③評価結果(内部質保証推進委員会から)

総評	
課題事項	

(7)学修成果

①確認項目

1. 評価項目	大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則して、適切な学修成果が得られていること
2. 主な説明項目	標準修業年限内の卒業(修了)、資格取得等の状況が、大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則した状況であること 就職及び進学が、大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則した状況であること 卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則した学修効果が得られていること 学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしていること
3. 説明のための取組事例	標準修業年限内の卒業(修了)率、資格取得の状況、進路状況等を、学部(学科)・研究科として組織的に点検し、学修成果の把握・評価に取り組んでいる。 学生アンケートに基づき、学修行動や学修成果の把握・評価を行っている。 学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導の改善のために活用している。
4. 根拠資料・データ	標準修業年限内の卒業(修了)率 資格の取得者数が確認できる資料、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 就職率 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料

②チェック項目 ※「はい」・「いいえ」のどちらかに「○[記号]」をご記入ください。

1	学修成果に関する次の記述に回答してください。			
	・標準修業年限内の卒業(修了)率、資格取得の状況、進路状況等を、学部(学科)・研究科として確認し、学修成果の把握・評価に取り組んでいる。			はい
				いいえ
	・就職率(進学率)の状況、主な就職先(進学先)を確認し、学修成果の把握・評価に取り組んでいる。			はい
				いいえ
	・卒業(修了)時の学生アンケートにより、卒業(修了)時点の学生に対し、大学等の目的及びディプロマ・ポリシーに則した学修成果が得られていることを確認している。			はい
				いいえ
	・学修成果を可視化している。			はい
			いいえ	

	・学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導の改善のために活用している。		はい
			いいえ
	・ディプロマサプリメント(学位証書や成績証明書の補足資料)など、各学生が修得した知識や能力等を明らかにするための取組を実施している。		はい
			いいえ
2	学部(学科)・研究科独自に行っているアンケート調査等、学修成果把握のために実施している取組がありましたら、その概要を記載してください。		
3	資格の取得者数、各コンペティションの受賞状況について記載してください。		
4	学修成果について「チェック項目1」で「いいえ」となった項目の見直し予定を記載してください。		

③評価結果(内部質保証推進委員会から)

総評
課題事項